



栃木県支部ニュースNo.44
栃木県支部公開講演会
2025年5月1日発行
栃木県支部



栃木県支部ホームページQRコードです。
スマートフォンでのアクセスに利用下さい。

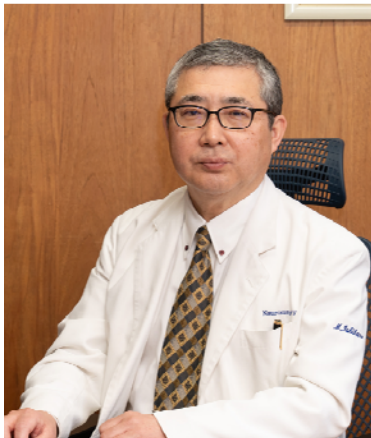
北里大学同窓会栃木県支部 公開講演会と懇親会開催

北里大学同窓会栃木県支部
支部長 滝 龍雄

公開講演会、より知識の深化を

栃木県支部の皆様

隔年で開催して
います北里大学同窓会
栃木県支部の公開講
演会を開催します。
今回は北里大学医学
部を1990年に卒業
した石原雅行先生で
す。石原先生は
2024年独立行政法
人国立病院機構栃木
医療センター院長に
就任されています。専門は脳神経外科ですが、公開講
演会として、医学分野以外の方々にも判るよう、お話
して下さいます。



開催日時 2025年6月22日 15:00~16:30
場所・時間 栃木県総合文化センター特別会議室
参加費 無料
講師 石原雅行先生(独立行政法人国立病院機構
栃木医療センター院長)

演 題 「脳卒中! その時どうする?」

- ① 脳血管障害の基本的な話
- ② 日本脳卒中学会の推奨する予防の話
- ③ 最近の血栓溶解療法や血栓回収療法の話
- ④ 市民ができる初期判断方法と

『Time is Brain』の話

本公開講演会の入場料は無料です。会場の定員は先
着200名で、支部会員には50席を用意します。この講
演会は下野新聞社、宇都宮市医師会、北里大学同窓会、
北里大学医学部同窓会栃木支部の後援で、北里大学同
窓会には役員を派遣して頂くようお願いしています。

懇親会、美味しい食事とお酒!!

総会終了後、石原先生を囲んで支部懇親会を開催し
ます。栃木の名店、「懐石・天ぷら」の治兵衛が誇るお
料理とお飲み物を肴に楽しい時間をお楽しみましょう。

場所 治兵衛(ホテル・ザ・セントレ宇都宮3階、
講演会場より徒歩2分、028-625-1212)

時間 午後5時開始

会費 北里柴三郎博士 6枚(6,000円)

40歳以下、70歳以上 4枚(4,000円)

講演会、懇親会の参加申込みは

- ① 同封のハガキに各自で切手を貼って投函する
- ② メールで申し込む; tatabox@kitasato-u.ac.jp
- ③ 下記の支部会員用QRコードから返信する



支部会員用 講演会・懇親会申込用 QRコード メールおよびQRコードでの記入事項

お名前と会員番号(例: 栃木会員、2018KU00217):
2025年6月22日(日曜日)の栃木県支部公開講演会に
(参加・欠席)します。どちらかに○を付けて下さい。
参加される方、参加人数とお名前をお書きください。
2025年6月22日(日曜日)の栃木県支部懇親会に
(参加・欠席)します。どちらかに○を付けて下さい。
参加される方は、年齢もお書きください。
住所、アドレス等の変更があればお知らせ下さい。
住所: アドレス:
☞ 出席予定の方は、確実な連絡先をお書きください。
電話番号: email address:
公開講演会のポスター掲示、チラシ配布をお願いできる
方は下に○をしてください。直ぐに送ります。
() 引き受けるよ。任せて!!

のどれかをお願いします。公開講演会申込者には、
後日、入場用のハガキを送ります。当日、受付でお見
せください。

北里大学同窓会栃木県支部 設立30周年記念 北里柴三郎記念館見学ツアー

栃木県支部支部長 滝 龍雄

北里大学同窓会栃木県支部の皆さん

栃木県支部が1994年に設立されて満30年経ちました。支部創立30周年記念の企画として熊本県小国町の北里柴三郎記念館ツアーを開催します。

開催時期は秋の11月とし、JTB宇都宮に以下のような計画をお願いしました。

申込先:支部長まで tatabox@kitasato-u.ac.jp

募集人数: 20名 (申し込みの先着順)

参加費: 110,000円

一部参加:全行程ではなく、一部参加も可能です。

*羽田空港集合・解散としました。

*見学は北里柴三郎記念館と太宰府八幡宮です。

*ひぜんやでの夕食は懇親会を兼ねます。

*宿泊でベッド・同室を希望する方はお知らせ下さい。

*福岡のホテルは手配中です。空港までは地下鉄です。

出欠の返信方法と支部ニュースの 郵送方法の変更について

北里大学同窓会栃木県支部

支部長 滝 龍雄

事務局 田村 明美

栃木県支部会員の皆様、お元気ですか。

皆様もご存知のように、昨年10月に郵便代が引き上げられました。栃木県支部では今まで、大学同窓会の支部通信費援助により、支部会費を徴収しないで運営して来ました。しかし、郵便料金の値上げに伴い、ニュース等の印刷費なども考慮すると、今まで通りの返信方法や支部会ニュースの郵送では赤字となり、支部会費を徴収しないでの運営継続が困難となる事から、今年2月の運営委員会で、今後の通信費をどうするかを検討しました。

目的は、今後も栃木県支部では年会費を徴収しないで運営できるよう、郵便費等の節約のために新年会・講演会等の参加申込み、及び近況の返信方法等の見直しを検討させて頂くことになり、その為に受益者である皆様の御意見を伺う事になりました。

皆様には今後、以下のご都合の良い方法を選んでいただきますようお願いいたします。

支部よりの連絡等についてのご意見記載事項

氏名: ()

学部/卒業年(西暦): (/)

Q1 返信の方法について

◎同封の返信ハガキに各自で切手を貼って投函する。

◎同封するQRコードから返信する。

(スマホでQR読み Google フォームで回答)

※今回のアンケートも下記のQR(URLタップでもOK)で返信できます。

Q2 支部ニュースの配送方法について

◎今まで通り郵送が良い。(赤字になります。)

◎メール(PDF)が良い。

その他のご意見があればご自由にご記載ください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe7F1qD52NxYH2i0Z4rQFI4qGqDN_IY_HfgfXvJwoZa7Y8SMw/viewform?usp=header



郵送方法に関する意見返信用QRコード

(公開講演会・懇親会用QRコードではありません)

	月/日 (曜)	行程	宿泊
1	11/7 (金)	10:00 羽田空港集合 11:30 同 発 ↓ JAL629便 13:25 熊本空港着 13:40 同 発 ↓ 貸切バス 16:00 北里柴三郎記念館着 17:00 同 発 ↓ 貸切バス 17:30 杖立温泉着・夕食	杖立温泉 ひぜんや (熊本県阿蘇郡 小国町 大字下城4 223)
2	11/8 (土)	09:30 朝食後宿舍発 ↓ 貸切バス 10:30 九重夢大吊橋着 11:15 同 発 ↓ 貸切バス 12:00 日田温泉郷・昼食 13:30 同 発 ↓ 貸切バス 15:00 太宰府八幡宮着 16:00 同 発 ↓ 貸切バス 16:30 福岡市内着・夕食	(予定) 博多 キャナル シティ 福岡 ワシントン ホテル (福岡市 博多区 住吉 1-2-20)
3	11/9 (日)	朝食・午前自由行動・自由昼食 13:00 ホテル発 ↓ 地下鉄 13:40 福岡空港着 15:05 同 発 ↓ JAL318便 16:40 羽田空港着・解散	

支部会員近況 (新年会時)

土山典子(1994HH)

派遣されていたオリヅルセラピューティクスという会社で iPS 細胞事業を少し垣間見てとても勉強になりました。山中伸弥教授が施設を訪問されてお顔を拝見でき貴重な体験をしました。今は派遣も終了してのんびり就活しています。

息子 3 人はそれぞれ社会人、春から大学院進学、大学生と手はかからなくなりましたがまだまだお金がかかります。

引き続きどうぞよろしくお願い致します。

大木 美智子(1979PP)

実母が、グループホーム入所して 3 年目になりました。おかげさまで、母は元気でおります。

毎週、施設に行っています。月 2 回は、階段が上がれないということで、イオン佐野新都市で歩いていますが、すぐ「くたびれた・トイレ」。まあ、それでもふらつきはなくなってきたので効果があると思っています。2,500 歩くらいです。ケアマネは、喜んでます。

又、実妹が起こした「成年後見人申し立て」により、4 月後半から、書類 200 枚以上提出。家庭裁判所事務官・調査官との面接・書類の提出などあり、疲れ切っています。まだ、結論はなし。後見人手続きは勉強になりましたので、それはそれでよかったです。

妹が面会に来ると、母が不穏になり「物とられ妄想」出現。「下水道料金は、おばあちゃんが払うって言った」と一点張り、その手続きをするのはわたし。自宅の火災保険は母が施設に入る前に、「妹名義にしてください」と言っても本人は払わない。私は無保険でも構わないと言って、妹がやっと払いました。なので、多分母に会いに来るときはお金の話だと思います。

「通帳がない・お祝い金は 30 万円用意しなくちゃ」など、お金に絡んだ妄想が出現。

妹は、ケアマネ・認知症ケア専門士で、認知症患者を不穏にするというスーパーケアマネです。

一卵性双生児なので年は一緒です。

近況というより、愚痴でした。

千野根純子(1984HH)

『再任用職員 3 年目仕事は定年前と同じなのに、給料は減る一方.....』

給与明細を見るたびため息しか出ませんが、推し活のために、頑張ってます!!』

今井幸子(1970HC)

昨年は長年痛みの続いていた股関節の手術を受けおまけで院内感染の新型コロナも経験しました。現在は日の出を見ながらの一時間ほどの散歩も定着しその効果か週一回の卓球でも左右の動きも軽快でゲームを楽しんでいます。

ラージボール及び卓球の仲間を募集してます!!

メンバーは仕事帰りに寄って行く現役世代から高齢者まで自分の都合の良い時間で来ます。前半ラージ卓球、後半硬式卓球が中心ですが両方でも可!!

いつでも見学してみてください。

毎週月曜日 時間:17:00~21:00

会場:グリーンタウンコミセン(下野市緑 3 丁目) 会費:1000 円/月(お試しは無料)

連絡先:今井(090-4366-5727)

阿部菜穂子(1989PP)

仕事では昨年は葉不足に翻弄された 1 年でしたが、年末に孫が誕生して、私生活はグッと明るくなりました。

滝 龍雄(1971HH)

1973 年 4 月に自治医科大学医学部微生物学教室に助手として赴任し、もう 50 年以上です。道産子から栃木県人になり 50 年以上ですが、心の故郷は北海道のままです。藤田朋恵先生や竹原めぐみ先生のように北海道出身の方々には、例え帯広と和寒(旭川の北)と遠く離れていても近親感を覚えます。

「三つ子の魂百まで」と言いますが、栃木県支部にも栃木県外出身の方が多く参加しています。同じような諺に「雀百まで踊り忘れず」、「病は治るが癖は治らぬ」、「噛む馬はしまいまで噛む」、「頭禿げても浮気はやまぬ」などがあるようですが、少しでも、栃木県の事を理解しようと努力しなくてはと思う今日この頃です。

滝 龍雄(1971HH)

口腔内のガン手術からもうすぐ 5 年。何とか元気です。でも、大分足と食欲が衰えたかな?

Relay for Life JAPAN 2025 in Tochigi への参加について

北里大学同窓会栃木県支部
支部長 滝 龍雄

Relay for Life JAPAN (RFL) in Tochigi は 2012 に開始され、昨年は第 12 回目でした。RFL の目的は、病気を患っている人や何らかの事情で生きづらさを抱えているすべての人ががんをテーマに共通の想いのもとに歩き、絆を強めることで、すべての参加者の生き方がともに支えられ、「支えあう仲間」となれる地域社会を育てる事です。しかし、近年はその趣旨が参加者に十分に理解されているか難しい所です。北里大学同窓会栃木県支部は、本イベントの趣旨に賛同し、第一回目から参加していますが、参加者の減少と高齢化が顕著になってきており、この辺りで一度、その意義について検討する事も必要で考えています。

今年の RFL が開催されると思われませんが、近年の全体の参加状況や、一昨年まで隣のテントで栃木県支部でも非常にお世話になっていた Make a wish も不参加となり、更に参加に際しては登録料、広告代、テントや机の借料など約 5 万円掛かっています。

先日の運営委員会では、RFL の参加について、一度立ち止まって検討した方が良いという意見が多く、2025 年は一旦参加を休止する事にしました。

初めまして、川上勝です。

川上 勝(1996 看護学部卒)

皆様、こんにちは。
川上勝と申します。現在、自治医科大学看護学部で老年看護学の教員を務めております。

北里大学看護学部を卒業後、北里大学病院および横浜市内の介護老人保健施設で臨床経験を積み、看護の現場での実践力を養ってまいりました。20 年前に栃木県に移り住むこととなり、長野県松本市出身の私にとって、栃木は住み心地が良く、まるで第二の故郷のように感じています。

大学では、次世代の看護師の育成に力を注ぎつつ、看護工学に関する研究にも取り組んでおります。特に近年は、地域における看護師の役割の拡大や多職種連携の重要性を強く実感しており、教育・研究活動を通じてその実現を目指しています。看護師が地域社会で果たすべき役割はますます重要になっており、私たちの取り組みがその一助となることを願っています。また、5 年前には研究成果の社会実装（商品化）を目指して大学発のベンチャー企業（株式会社 ナーステックラボ）を立ち上げました。この企業活動を通じて、ケア現場のニーズに応じた革新的なツールの開発に取り組んでおり、ケア専門職だけでなく、家族などの介護を担っている方々の負担軽減に貢献したいと考えております。私たちの研究が実際の現場で役立つことを目指し、日々努力を重ねています。

同窓会県支部の皆様とは様々な形で情報交換や交流を深めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



北里大学同窓会主催 熊本・小国町ツアーに参加して

滝 龍雄

3 月 7・8 日、北里大学同窓会主催の「熊本・小国町ツアー」に参加しました。事情があって申込みをして居なかったのですが、申込み締切りを過ぎて間もなく同窓会より「定員に少し空きがありますので、参加しませんか？」というメールが来ました。昨年の支部長会の時に、「栃木県支部では、来年支部設立 30 周年を記念して、熊本・小国町ツアーを企画しています。」と話したことを同窓会の事務の方が憶えていて連絡してくれたようです。僕自身は熊本の北里柴三郎記念館には過去 3 度出掛けているのですが、ここ 20 年以上行っていないので、お言葉に甘えて下見を兼ねて参加する事にし、念の為、前日熊本入りしました。

翌日（7 日）の集合は午後 1 時に熊本空港の旅客ターミナルでした。時間には参加者全員が集合しましたが、驚いたことがありました。何と、参加者 35 名（世話人 4 人を含む）の中に 2,000 年以降の卒業者が 13 名も居た事でした。さらに、北海道からの参加者もあり多彩でした。てっきり、高齢者ばかりだと思っておりましたが、若い人達にも興味のある企画だったようです。世話人に話を聞くと、応募者は 50 名近かったようですが、友達同士でも何とか参加したくて夫々で申し込んでいた人が多く、いざ当選となると、重複している方は代表者以外の分はキャンセルし、結局定員居空きが出たようでした。

一時過ぎに我々 35 名を乗せたバスは空港を出発。途中、台湾のコンピュータ・チップ製造工場（台積電熊本工場）の進出で、日本一の人口増加率となった菊陽町を身ながら小国町を目指し、約一時間半で北里柴三郎記念館に到着しました。記念館は新しくドンネル館が建設され、周りも綺麗にリニューアルされていて、20 数年前の面影は無くなっていましたが、出迎えて頂いた北里英郎記念館長（元医療衛生学部長、北里大学名誉教授）の案内で施設を見学しました。記念館を見学後、宿舎である杖立温泉のひぜんやに向いました。ひぜんやは想像していた田舎の鄙びた温泉宿とは大違いで、立派なホテルでした。ホテルの中には熊本県と大分県の県境の標識もありました。

ひぜんやで一休みの後、野天風呂に行ったりして時間を過ごし、午後 6 時半より夕食です。北里先生ご夫妻も参加され、自己紹介をしながら、肥後牛のすき焼きや地元の農作物が沢山入った釜めし、さらに飲み放題で満喫しました。何と、参加者には北里カップルが 4 組も居ました。がしかし、更に二次会場が別途準備されていて、そちらに移動し、カラオケでのど自慢をしながら、またまた飲み放題の楽しい時間でした。若い参加者も大いに飲み歌い、年齢差を忘れて愉快的な時間でした。

ツアーの二日目はバイキング形式の朝食の後、九重

県内企業と共創！暮らしを支えるスマイルシリーズ



(ナーステックラボのスマイルシリーズ製品)

ツアーの二日目はバイキング形式の朝食の後、九重夢大吊橋に向いました。現地では大部分の参加者は小雨の中、大吊橋を楽しみましたが、僕は足が地に付かないと不安なので、一人休憩所でコーヒーを飲み、その後再び北里柴三郎記念館の近くに帰り、北里バラで熊本牛を使った赤牛重の昼食でした。昼食後、熊本空港に戻る途中、大観峰で阿蘇の雄大な景色を見る予定でしたが、生憎曇りで残念でした。大観峰からは一路熊本空港に向かい、予定より早く到着しましたが、参加者の約半数は当日、熊本市内での宿泊を予定しており、更に熊本駅まで行きました。

僕も熊本駅まで向かい、夜はツアーに参加した友人二人に同窓会熊本県支部の入江英治支部長も加わり、熊本の海の幸を肴に打ち上げの宴でした。

今回のツアーで、大体の熊本のバスによる移動時間が判り、11月の支部のツアーの計画を立てる上で、大いに参考になりました。ツアー自体は熊本空港から熊本空港までの全経費が同窓会本部の予算で、参加者は熊本までの往復の交通費と、その他の雑費が必要でしたが、大いに楽しませて貰いました。支部企画の熊本・小国町ツアーで参加して頂ける方々にどう楽しんで貰えるか、色々と考えている所です。

近代紙幣印刷の父 エドアルド・キヨッソーネ

滝 龍雄

はじめに；

2004年(平成16年)以来使われてきた日本の紙幣のデザインが、昨年7月から新紙幣に変わり、夫々の紙幣の顔も変更されました。1,000円札も野口英世博士から北里学園の学祖、北里柴三郎博士に変わりました。野口博士は北里博士が所長をして居た私立伝染病研究所(現在の東京大学医科学研究所)の所員でしたので、北里博士への変更は弟子から師への回帰とも言えます。

(新2,000円札は変更なしですが、沖縄以外の地区では殆ど流通していないので、需要がない?)

皆さんも既に手にされている(1,000円札より5,000円札や10,000円札が多いという方も多いかもしれません)と思います。新1,000円の表と裏を良く見ると、表は北里博士ですが、裏は葛飾北斎が70歳台で書いた代表的版面の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」です。



(1,000円札の裏面は「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」です。

因みに、北里博士の原図は北里柴三郎記念博物館から提供されたそうですが、「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」は版画由来です。版画は幾つかあるそうで、実際

に用いられたのは保存状態の良い山梨県立博物館のものでした。

紙幣をよく見ると、北里博士を始め他のお二人も写真ではありません。裏面の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」と共に「超」と言ってもいいような高精細な画線で作られています。これは写真と違って、お札偽造を防ぐための重要な技術です。新紙幣には従来からの偽造防止技術である潜像技術、パールインク使用、マイクロ文字、深凹版印刷、識別マーク、すき入れパターン、特殊発行インクの使用に加えて新たに導入された高精細すき入れ模様と3Dホログラムがあるようですが、素人の僕には能々見ても良く判らなく、「そうなんだ!?!」と感心するだけです。

卓越した偽札作りの困難な超細密銅版画面技術：

この紙幣の印刷技術の基となった超精密な画像は銅版画面が基礎となっています。この銅版画面技術は明治初期までは残念ながら日本には有りませんでした。それで当時の明治政府は偽造されにくい紙幣を作成する為に、1875年(明治8年)ヨーロッパにおいてこの分野で抜きん出ている技術を持っていたイタリア人、エドアルド・キヨッソーネ(Edoardo Chiossone)をお雇い外国人として採用しました。

キヨッソーネが来日したのは1875年(明治8年)で43歳の時でした。キヨッソーネ日本が日本に来る前ドイツの会社で印刷術を教わりましたので、ドイツ語が堪能であったと想像されます。又、北里博士は、ドイツに留学した時、師のローベルト・コッホがそのドイツ語が堪能なのに驚いたと言われています。

北里博士は、熊本医学校の頃、マンズフェルトがオランダ語で行った講義を日本語(肥後弁?)に通訳したことが知られています。マンズフェルトは長崎から熊本に移った時に、長崎時代の教え子に通訳させていたようですが、北里博士の語学に対する才能を見抜き、一年間、夜はマンズフェルトの家でオランダ語を勉強させ、2年目からは講義の通訳をさせたそうです。

下の年表の比較にある様に、一時期に東京の麹町と麻布と言う比較的近所に住んでいて、ドイツ語と言う共通の言葉でキヨッソーネと北里博士が親しく会話していたのではないかと妄想が膨らみ、二人の事を調べて見ました。

キヨッソーネと北里博士、活躍時代の比較；

キヨッソーネは1833年1月にイタリアの代々製版・印刷業を営んでいた家系に生まれました。美術学校で銅版画面の彫刻技術を学び、在学中に特別賞を受賞し卒業後、美術学校の教授となりました。1867年のパリ万国博覧会でも銅版画面で銀賞を受賞し、その後、紙幣造りに興味を持ち、イタリア王国国立銀行に就職し、同国の紙幣を製造していたドイツのドンドルフ・ナウマン社に勤め、そこから更にイギリスの印刷会社に勤めていました。表にある様に、1833年生まれの子ヨッソーネは1853年生まれの北里博士の丁度20歳年上で、

北里博士が東京大学に入学した 1875 年に来日したことになります。

キヨッソーネが来日したのは 43 歳の時でした。日本に来たのは明治政府が破格の条件を提示したこともあり、当時ドイツは写真製版技術の発達が進んでいました。彼は銅版画の技術を生かせる活躍の場を求めていると思われませんが、明治政府が精巧な紙幣印刷をドイツの会社に依頼すると経費が嵩み、安全性に問題があると考え、国産化を目指しその技術指導の出来る人材としてキヨッソーネを採用したようです。

キヨッソーネと北里博士の比較年表

年	キヨッソーネ	北里柴三郎
生年月	1833 年 1 月	1853 年 1 月
初来日	1875 年 (43 歳)	
独留学		1885 年 (32 歳)
日本帰国		1892 年 (39 歳)
退職	1891 年 (59 歳)	
没年	1898 年 (65 歳)	1931 年 (78 歳)
没地	東京・麴町平河町	東京・麻布

キヨッソーネは来日後、大蔵省紙幣局（現・国立印刷局）を指導して、印紙や政府証券の彫刻をはじめとする日本の紙幣・切手印刷の基礎を築き、更に新世代を担う若者たちの美術教育にも尽力しました。彼が大蔵省に奉職中の 16 年間に、版を彫った郵便切手、印紙、銀行券、証券、国債などは 500 点を超えています。明治以降、日本で製造された近代的紙幣の初期の彫刻は彼の手がけた作品です。また 1888 年には宮内省の依頼で明治天皇の御真影を製作し、元勳や皇族の肖像画も残しました。

日本の欧米諸国の技術水準で製造された最初の普通切手シリーズの小判切手は彼がデザインしたものです。

印刷業における功績として、様々な本格的な銅版技術を伝授し、日本でそれまで普及していなかった原版から精巧な複数の版をおこす「クラッチ法」や「電胎法」などをもたらした事で、安定した品質での大量印刷が可能になりました。

キヨッソーネの晩年

1891 年（明治 24 年）に大蔵省紙幣局を退職した時（北里博士はその翌年、ドイツより帰国しています）には麴町区平河町に住んでおり、退職金や終身年金、就寝恩給などが莫大な収入があり、イタリアには帰国しないで、これらの収入の殆どを、日本の美術品や工芸品を購入するのに当てて、寄付したといひます。

結局彼は、1898 年に 65 歳で亡くなるまで東京・麴町に住み、青山霊園の外人墓地に葬られました。キヨッソーネが収集した膨大な美術品は、15,000 点余りに上り、その収集品は死後イタリアに送られ、ジェノヴァ市立のキヨッソーネ東洋美術館に収蔵されています。北里博士はキヨッソーネ死後の 33 年後（1931 年）に亡

くなり、キヨッソーネと同じく青山墓地に葬られています（埋葬場所が近いかどうかは不明です）。

北里博士が帰国（1892 年）した時にはキヨッソーネは大蔵省を退職しており、6 年位麴町と麻布に住んでいたのも、お互いに面識があったかもしれません。ただ、この時期の北里博士は多忙で、芸術に時間をかけるゆとりがあったのかは不明です。

ところで、キヨッソーネと同じ時期にイタリアから日本に招かれたお雇い外国人にアントニオ・フォンタネージ（1818～82 年）がいます。キヨッソーネの一年後の 1876 年（明治 9 年）に来日し、工部美術学校において洋画と石版画の技術を教えました。ファンタネージは 1818 年生まれなので、キヨッソーネよりも 15 歳年上で、来日した時には既に 58 歳でした。残念なことにファンタネージは来日後体調を崩し、わずか 2 年後の 1878 年にはイタリアに帰国しましたので、キヨッソーネとは殆ど接点が無く、北里とも当然接点は無かったことと思われます。

印刷には文字の印刷を行なう活字の技術と、図像の印刷を行なう版画技法からの流れとの二つがあり、キヨッソーネの銅版画もフォンタネージの石版画も、図像の印刷の流れに属しています。当時の印刷はただ版をつくる技術があればよいのではなく、版に直接図像を描画する必要性から美術に関する素養が必須だったようで、明治期においては印刷技術と美術が不可分の関係にありましたが、その後の印刷技術の発達、写真製版の登場が印刷と美術とを分離させました。本来複製印刷技術であった銅版画や石版画が美術の技法としても展開していく事には興味深いものがあります。

編集後記：栃木県は日光、鬼怒川、塩原、那須等、多くの温泉地があり、都内からも比較的近いことから、国際観光都市として日本人ばかりでなく外国から多くの観光客が訪れています。

日本の温泉療法を最初に世界に発信したのはベルツ博士でした。ベルツ博士（Erwin Von Balz；1849 年 1 月 13 日生まれ）は明治 9 年政府の招きで来日し、東大医学部の前身である東京医学校で 26 年間、教壇に立ち、日本医学のために多大な貢献をした人です。1883 年（明治 16 年）4 月 21 日付けの北里博士の東京医学校の卒業証書には、＜内科病床実験、内科論理、産科学：教師＞としてベルツ博士のサインがあります。北里博士の恩師でもあるんですね。

ベルツ博士は 1878 年（明治 11 年）頃より群馬の草津温泉に数回訪れ、温泉を分析し、正しい入浴法を指導すると共に「草津は高原の保養地として最も適地である。草津には優れた温泉のほか、日本でも最上の山と空気と全く理想的な飲料水がある。こんな土地がもしヨーロッパにあったらどんなににぎわうだろう」と称え、世界に紹介しました。

ベルツ博士のお弟子さん達が歌っていて、ベルツ博士も歌っていたというドイツ語の草津節で、以下のような歌詞です。

Kusatsu guten platz Einmal kommen Sie どころらしょ

In heisser Quelle こりゃ BluhBlumen チョイナ チョイナ♪